

はじめよう！ 当別しゃっきりチェック

■問合せ 介護課高齢者支援係（ゆとろ内 ☎ 27 - 5131）

当別しゃっきりチェックって？

- ・日々の生活に関する簡単なアンケート
- ・握力や足腰の筋力などに関する簡単な体力チェック
- ・測定器具を利用した筋肉や脂肪の状態のチェック
- ・フレイル予防や健康づくりに関するミニ講話

などを通じて介護予防に取り組む「当別しゃっきりチェック」を6月中旬より順次スタートします。

この事業は、当別町・当別町社会福祉協議会・当別町地域包括支援センター・北海道医療大学の4者が協働で実施し、今後数年をかけて町内の多くの地域での開催を予定しています。

介護予防のために

当別町の65歳以上の方の割合は、令和5年4月時点で36.8%であり、介護が必要となる方も今後増加していくと予想されます。

介護が必要となる要因には、サルコペニア（筋肉量の減少）やフレイル（心身の虚弱）、ロコモティブシンドローム（身体能力の低下）など、予防可能なものもあります。

そのため、これまで行ってきた「とうべつしゃっきり体操」に加えて、「当別しゃっきりチェック」を行うことで、介護が必要となる要因を早期に発見し、改善を図り、健康で暮らし続けられるようサポートをします。

概要

対象者 65歳以上の方

料金 無料

所要時間 しゃっきりチェック 20分程度
健康講話 20分程度
※参加人数により、所要時間は前後します

会場 ゆとろや地域会館などを会場として開催予定

詳細は対象地域ごとにホームページや町内会長などを通してお知らせします

その他 参加者には、チェック結果を記録する「こころとからだのしゃっきり健康ノート」をプレゼントします

広 告

広 告

とらべつ

歴史余話

第30回 まぼろしの豎穴群2

— 航空写真から見たもの —

札幌国際大学
縄文世界遺産研究室長

越田 賢二郎

2022年10月の広報に、「まぼろしの豎穴群」のテーマで、当別町内に存在した可能性のある豎穴群について記した。その中で、昭和13(1938)年に刊行された『黨別村史』に、「本村には豎穴(の凹み)があり、市街地を中心とする当別川沿岸に多く、特に字樺戸通りより対雁墓地及び蕨岱小学校付近を経て、江別町篠津村に到る、昔の当別川沿岸一帯の高燥の地に点在している」との記録を紹介した。

その後、終戦後に米軍が撮影した古い航空写真から遺跡の存在を調査している、宮塚義人氏(宮塚文化財研究所)と清水昌樹氏(シン技術コンサル)にお願いして、当別川周辺の様相を探ってもらった。すると、村史に記載されている地点から石狩川との合流地点まで、様々な凹みの痕跡と思われる地点が確認できたので、あらためて現地に赴き、その様相を見てきた。

航空写真などから遺跡を見つける研究は、イギリスなどで古くから行われてきた。ソイルマーク(地下の遺構の形状が乾燥状態の具合で、地表面にできる濃淡)やクロップマーク(地下の遺構の影響で地表の草本の生育状況に差が生じ、草本の高低差によってできる濃淡)を航空写真から探し、そこに遺構があるかどうかを発掘して確認する作業である。最近では「宇宙考古学」の言葉もあるように、衛星画像から遺跡を見つける作業も行われ、その成果も出されている。

今回、戦後まもなくの航空写真によって、大規模な開発や造田工事が行われる前の

地形を明らかにできた。また、その周辺に豎穴建物跡らしくぼみや巨大な円形のくぼみがあった可能性が出てきた(図)。実際に、墓地や旧小学校付近に行くと、旧当別川の流路痕がわかり、校庭の片隅に豎穴建物跡らしきわずかな凹みが残っていた。春の芽生えの時に、周辺の畑や草地で、地下の遺構が浮かび上がったかのように、クロップマークが見えるかもしれない。皆さんも目をこらして、眺めていただけないだろうか。

ただ、それらしきものは見えても、発掘調査をして建物跡だと確認できなければ、豎穴群があったと確実なことはいえない。擦文文化期(7~12世紀)の豎穴建物跡が埋没して残っていることがわかれば、まぼろしの豎穴群が再び姿を見せることになる。



この図は昭和23年6月8日に米軍が撮影した航空写真をもとに、Stereo Metric Pro ver.8.0を用いて図化したもの。点線で表示した円は、遺跡跡の可能性があると判読できる(作成協力/宮塚文化財研究所、シン技術コンサル)。

自分で育てた野菜を食べて 美味しいと言ってもらいたい

やつしろ たかのり 八代 昂憲 さん



田植えの補助作業をしている八代さん

ここに書ききれないエピソードや写真は
当別町ホームページ「現在を生きる+」
でご覧ください。



地域おこし協力隊(農業支援員)の制度を活用し、新規就農を目指して令和4年5月から研修を受けている八代昂憲さんにお話しをお聞きしました。

小さいころからの夢

札幌出身で当別高校の園芸デザイン科に進学し、農業関係の専門学校を卒業しました。専門学校の卒業前後に、新規就農について役場や農協の方と相談をした中で、地域おこし協力隊制度の紹介を受け、将来自分に役立つと考えて応募。現在は、主に弁華別地区の農業法人であるライスター弁華のもとで研修に励んでいます。

親の影響から野菜を育てるのが好きで、5歳のころから家庭菜園を手伝い、じゃがいもやズッキーニ、ししとうなどの野菜を栽培していました。そのほか、ボーイスカウト活動の一環で、石狩市にある畑を使って、農業の普及指導員の方に教わりながら野菜を育てていたこともあります。このころから、子どもながらに将来は農家になるという夢を持っていました。

野菜は手間をかけて育てると、

労力に見合った成長を見せてくれるので、やりがいがあります。また、収穫したものを食べて美味しいと言ってくれることが何より嬉しいので、多くの人に自分が育てた野菜を食べてもらうためにも、農家になることを決意しました。

当別町で働く

高校では野菜と花卉の育て方、将来的に6次産業化を行いたいので、加工の勉強をしていました。

加工ではトマトをメインに扱っていたので、トマトを専門的に栽培したいと思うようになりました。そんな中、稲とトマトが美味しく育つ気候などの条件が同じであることを発見。当別町は稲の栽培が適していたので、トマトも必ず美味しく育つと思い、ここで就農しようと決意しました。

また、ライスター弁華の方と話す機会もあり、当別町のことをより詳しく把握することができたのも、ここで就農する意思を固めた要因の一つです。

研修の日々

ライスター弁華で育てている農

作物は、メインのお米のほか、麦・かぼちゃ・牧草・子実コーンなどです。去年は1年間のおおまかな流れを勉強し、一通りの作業補助をすることがメインでした。まだ機械には乗れていませんが、今後は田植え・融雪剤撒きなど、機械を使って本格的な作業をしたいと考えています。

今後の目標

将来的には独立して、野菜を販売したいと考えています。そのためにも、専門学校在学中に農業簿記、毒物劇物取扱者などの資格を取得したほか、最近は支援センターでの研修を通じて、野菜の生産技術や販売方法などを教わっています。早く独立をするためにも、日々、将来のことは見据えながら勉強をしています。



地域おこし協力隊のメンバーが町長と面会した時の様子(左から4人目が八代さん)